

# 敬子先生の暮らしのヒント

このコラムはインナービューティコンソーシアムサイト様の許可を得て、2007年7月から2008年6月まで掲載されたものを転載しています。

## 第四回 赤ちゃんは100%の愛情を持ってやってくる

長かった夏休みが終わり2学期も始まって1ヶ月が経ちました。お子さんをお持ちのお母さまたちもやっと本来の生活ペースを取り戻せた頃ではないでしょうか？

今回は、2人の息子を持つ母として、私自身がこれまで子育てについて考えてきたこととお話したいと思います。



まずは、幼少期の子育てについて。一番大切なのは、いかにたくさんの愛情を与えて育てるかということだと思います。赤ちゃんは(特別な場合を除いて)、溢れんばかりつまり100%の愛情をすでに与えられて生まれてきます。

その後成長の過程で、社会との摩擦や衝突を経験するに従って、傷ついて大人になっていくわけですが、幼少期(5歳くらいまで)にたくさんの愛情を与えられると、自己に対する尊厳を持てるようになるといいます。「あなたが存在することが、私(親)にとって大切なことなのだ」という思いで育てられた子どもは、自分の存在自体を肯定することができるので、困難な壁にぶつかった時に自分をゆがめることなく乗り越えることができるのです。

愛情をたくさん注いで幼少期を過ごした後、子どものしつけについて親は常に、「その子を大好きだという気持ち」と「世間体」のどちらをとるかという葛藤に悩まされます。「みんながこうしているから、うちもさせなければならない」とか「あの学校は名門だから入学させよう」など、世間体を守るということは親自身を守っていることなのではないかと思えます。そのことがひいては子どもの愛情を奪取し、自尊心を低くしてしまう。



世間一般違う点があると「間違っているのかもしれない」と悩むお母さんに出会うと、私はいつも「間違っていないよ」と声をかけています。「他の子はこうしているけれども、うちの子の個性を伸ばしてやるためには違う方法をとりよう」と親が世間に対して楯になってやれば、子どもは親を信頼して育っていけるのだと思います。

親というのは本当にたいへんなものだ日々実感しています。子育てを通じて、私自身も強く成長させてもらっています。

現在子育て中のお母さん方、大いに悩み闘いつつ、お互い頑張っていきましょう！